



## 冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ①

# 赤字でも内部留保がある！ 今から議論を巻き起こそう！

コロナ禍のため、病院では経営悪化で医師や看護師の夏のボーナスカットが提案されました。多数の看護師が退職の意向を示し、ショッキングなニュースでした。東京女子医科大では世論からの批判と労働組合の闘いにより、一転支給を検討との運びになりました。

JR東海においては、春闘で夏のボーナスが決着したのですが、JR東日本のように大きな削減はありませんでしたが、冬のボーナスがどうなるのかが職場で働く社員の心配事になっています。私たちも、医療関係と同じ境遇ではないでしょうか。今から、冬のボーナスカットを許さない闘いを展開していく必要があります。

コロナ禍以前の決算は、過去最高益と言われてきましたが、会社は「安定的支給ベース」を口実に、私たちの要求を下回る回答に終始し、儲かってももらえない状況が続いていました。その理由の一つが、リニアへの投資のための抑制です。そうして会社は常に誤魔化してきたのです。

ところで、会社は「安定的支給ベース」と言ってきたのだから、コロナ禍においてもそれを下回る支給はあってはなりません。2020年度第1四半期の決算は、純損益が726億円（単体では659億円）の赤字となりました。しかし、会社には内部留保があります。赤字でも出せる金があります。もし仮に、出せないというなら、リニアへの投資のためでしょう。ならばリニア建設を中止すべきです。

私たち社員は、コロナ禍の中で感染のリスクを負いながら出勤し、業務を遂行してきました。「苦労した者が報われる」と言うのなら、言葉通り報われなければなりません。冬のボーナス満額獲得に向けて、今から職場で議論を巻き起こそうではありませんか。